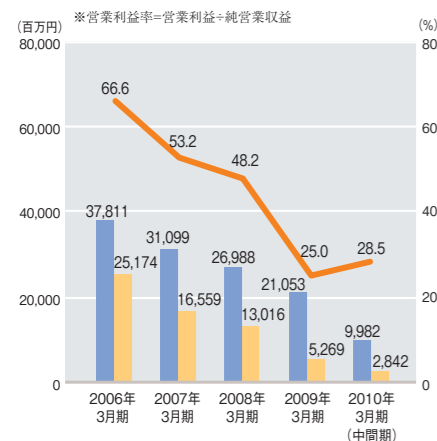
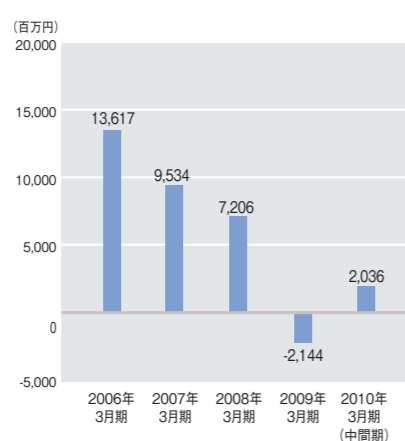


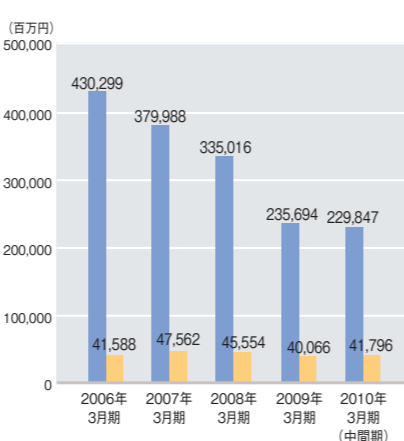
■ 純営業収益 ■ 営業利益 ■ 営業利益率 ※



■ 当期純利益



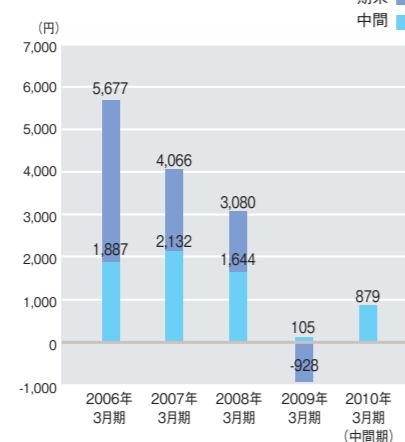
■ 総資産 / ■ 純資産



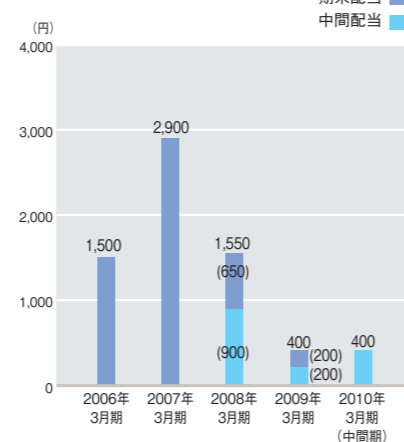
■ 自己資本当期純利益率 (ROE)



■ 1株あたり当期純利益 (EPS)



■ 1株あたり配当金額



本書記載のマネックス証券取扱い商品に係るリスクおよび手数料等について

マネックス証券でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場

合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、詳しくは「契約締結前交付書面」、「上場有価証券等書面」、「目録見書」またはマネックス証券ホームページをよくお読みください。

株式数および株主数

発行済株式の総数：2,344,687株

株式の売買単位：1株

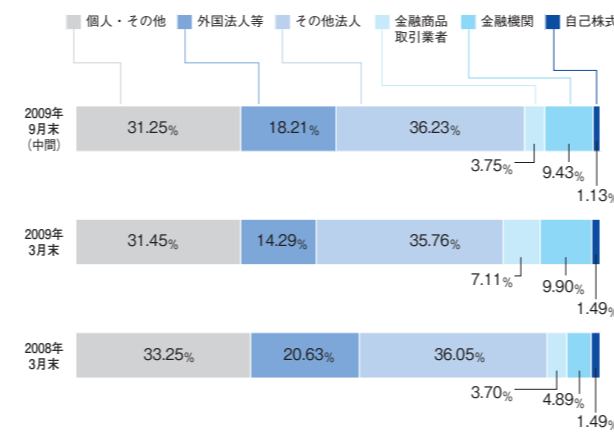
株主数：45,073名

大株主の状況

氏名又は名称	所有株式数(株)	所有株式数割合(%)
日興シティホールディングス株式会社	616,419	26.29
松本 大	260,480	11.10
ソニー株式会社	117,235	5.00
クレディスイスセキュリティズ(ヨーロッパ)リミテッド	77,949	3.32
みずほ証券株式会社	70,588	3.01
株式会社日本政策投資銀行	68,415	2.91
株式会社リクルート	57,200	2.43
ノムライインターナショナルビーエルシーアカウントジャパン フロウ	45,135	1.92
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	42,206	1.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	39,841	1.69

※日興シティホールディングス株式会社は、2009年10月1日付でシティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社に商号変更しております。

所有者別株式分布状況



マネックスグループ株式会社

設立 2004年8月
 代表者 松本 大
 資本金 8,800百万円
 事業内容 金融商品取引業等を営む会社の株式の保有
 所在地 〒100-6219 東京都千代田区丸の内1-11-1
 パシフィックセンチュリープレイス丸の内19階
 URL <http://www.monexgroup.jp/>

グループ会社

- 個人投資家への商品・サービス提供
 マネックス証券株式会社
 株式会社マネックスFX
- グループ独自の商品・サービス組成、ビジネス展開
 マネックス・オルタナティブ・インベストメンツ株式会社
 株式会社マネックス・ユニバーシティ
 トレード・サイエンス株式会社
 WRハンブレットジャパン株式会社
 マネックス・ビジネス・インキュベーション株式会社
- 海外子会社
 MBH America, Inc.

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当基準日 3月31日
 中間配当基準日 9月30日
 定時株主総会 毎年6月
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
 上場市場 東京証券取引所 第1部
 証券コード 8698
 公告方法 電子公告により行います。
 公告掲載URL <http://www.monexgroup.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に掲載いたします。)



第6期営業(中間)のご報告

2009年4月1日～2009年9月30日



マネックスグループ株式会社
代表取締役社長CEO

松本 大

徹底したコスト削減によって筋肉質な経営基盤を構築し、より大きな飛躍を目指していきます。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当中間期（第2四半期累計期間）における当社グループの経営環境は概ね良好に推移しました。株式市況も中国など新興国の復調を反映して上昇局面に入りましたが、一方では、新政権が発足する中で、第2四半期は個人の投資行動にリスクに対して慎重になる傾向が見られました。

そうした状況の中で、当社グループは筋肉質な企業体質を確立するために販売費・一般管理費の大幅削減を実行しました。前年度比で約6.5%の削減となる今年度予算から、さらなるコスト削減に努め、当中間期の実績値では前年同期比で9%の削減を実現しました。今後「攻めの経営」に転じるための準備が整ってきたことを実感しています。

当社グループは、次の成長に向けた布石を着実に打っています。長期的な成長スペースと位置づけている海外市場に

Monex will マネックスが目指すもの

■先進性の追求

お金との新しい付き合い方を提案し、金融の新たな領域を拓き続けます。

■お客様本位の徹底

お客様の声を企業活動の最大の指針とし、真に個人に必要とされる金融サービスを創り続けます。

■最良への挑戦

既存概念や旧来の価値観に決してとられないことなく、お客様にとって最良の商品・サービスを提供し続けます。

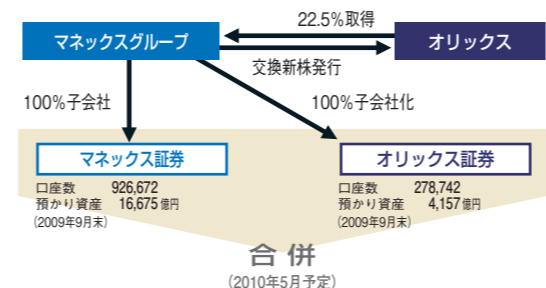
については、中国の北京において金融教育サービスを提供する合併会社の設立準備を進めているほか、マネックス証券の北京駐在員事務所設立に向けて仮申請が受理されるなど、中国ビジネスの本格展開に向けて前進しています。FXビジネスについては、お客様本位のサービスを実現するため、マネックス証券のFXサービスの手数料無料化を行いました。「知のインフラ」構築の一環であるオンライン投資アドバイス機能の開発も進行中です。

また、2009年10月28日には、当社とオリックス株式会社による証券子会社の統合および資本提携について発表しました。これは、2009年12月26日開催予定の臨時株主総会の承認を条件として、2010年1月17日に予定している株式交換により、オリックス証券を当社の完全子会社とし、2010年5月を目処としてマネックス証券とオリックス証券を合併させるというものです。本合併により、当社

当社とオリックス株式会社による証券子会社の統合および資本提携について

ストラクチャーと目的

■株式交換効力発生（2010年1月17日予定）以降の関係図



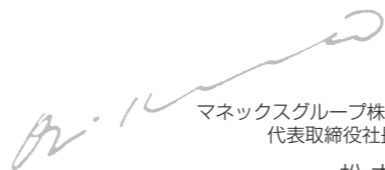
合併による基盤拡大、
商品・サービスの飛躍的拡充により、
我が国で最大で最良のインターネット証券を目指す

※この株式交換は、2009年12月26日開催予定の臨時株主総会での承認を条件とする

グループの営業基盤を強化し、金融グループとしてより大きな規模で成長を加速化させていきます。お客様へはよりよい商品・サービスの拡充、株主の皆様に対しては当社グループとしての企業価値の拡大を図ってまいります。

下期以降の事業環境は予断を許しませんが、当社グループは抜本的なコストカットによってより強靱になった経営基盤を活かし、証券子会社の大きな飛躍を踏まえて、革新的なオンライン総合金融ビジネスに進進してまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。


マネックスグループ株式会社
代表取締役社長CEO
松本 大



マネックス証券株式会社
取締役
蓮尾 聡

Q 当中間期の取り組みについて教えてください。

A マネックス独自の株式自動売買プログラムを活用した「日本株ロボット運用投信」(愛称:カプロボファンド)を、2009年7月に発売開始しました。投資家の皆様の絶対リターン志向にお応えできればと企画した商品で、投信初心者の方にも多くご購入いただいたようです。当中間期は潜在投資家へのアプローチにも注力しました。2009年8月から、オンライン証券初の、仮想マネーで株式取引を疑似体験できる無料サービス「マネックス パーチャルトレードクラブ」を始めました。仮想の運用成績を競う「グランプリ」も2度開催し、5,000名以上の参加者を集めました。

Q 他にも、情報発信体制の一層の強化を図ったと聞いています。

A 2009年8月、チーフ・ストラテジストとして羽賀誠を採用し、投資戦略レポートの提供を開始しました。日本株に関する短期および中長期の見解や投資戦略を発信するもので、お客様にとって興味深い情報提供になると確信しています。また2009年9月には、資産運用に必要な基礎知識や情報を集めたウェブサイト「MONEX CAMP」を



商品力の強化とサービス体制の高度化を図り、幅広い層のお客様から選ばれる証券会社を目指してまいります。

立ち上げました。これを機に“投資について学ぶならマネックス”というブランドイメージのさらなる浸透を図っていきます。

Q FXビジネスの進捗状況はいかがでしょう。

A 専門のマネックスFXは高レバレッジを特徴としていますが、マネックス証券で提供する「FX PLUS」は、幅広い金融商品の中にFXもあるという分散投資的な位置づけです。そのためレバレッジを比較的強く抑えたとともに、1,000通貨単位からの取引を可能にしています。2009年7月には「FX PLUS」の取引手数料を無料化し、9月には最高レバレッジを従来の約16倍から約25倍に引き上げました。

Q どのような証券会社を目指していますか。

A マネックスグループでは、「知のインフラ」の一環として、コンピュータによる投資アドバイス機能の開発を進めています。この機能が完成した時、お客様の投資環境が一層充実したものとなることは間違いありません。マネックス証券は、これまで投資に関心がなかった方や現在の投資成績に満足されていない方を含め、幅広い層のお客様から「選ばれる証券会社」を目指してまいります。

